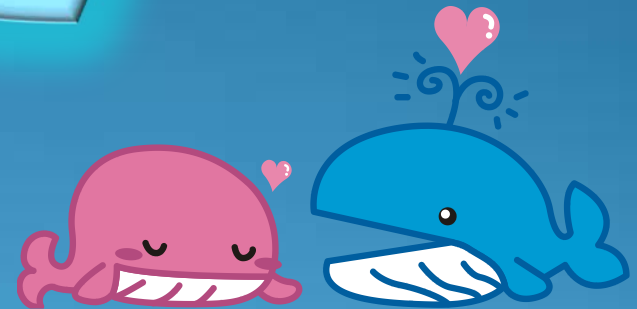


愛

Aブロック 全作品と講評



www.columnland.net/

にて作者さん&読者さんの声実況中

たくさんの人で賑わう夜

浴衣姿の君は

世界一の笑顔で

「また見に来ようね」

僕は何も言わずにうなずいて

いつもより少しだけ強く

君の手を握って歩き出す

そうして二人は

輝く空に永遠を誓った

結婚指輪と愛

結婚指輪を左手の薬指にする理由には諸説あるが、そのうちの一つに、次のようなものがある。

「人間の十本の手の指のなかで最も弱いのは、利き手ではない手の薬指、つまり多くの人々にとっては、それは左手の薬指である。そのか弱い指を貴金属で飾り立てることで、お互いの弱いところを守り、助け合いながら生きてゆくことを示している」

これが、愛の本質なのだろうと思う。

今日の世の中には“愛”が溢れているように思われるが、多くが Love の仮面をかぶった like ではないだろうか。Love は、一過性の like とは似て非なるものである。

「愛する」ことは、すなわち「守る」こと。何かを愛するには、それなりの覚悟が必要だ。

愛する者しか見えない世界

声の主は俺が一人目に刺した男だった。もうろうとしてきた俺の手元にはもう武器はなかった。

「なんでだよ、なんでだよ……ちくしように死ねねえよ、殺さなきゃ死ねねえよ、俺の家族を殺した奴らが……」

妹はどうなる。弟はどうなる。戦友たちはどうなる。先に死んでいった人たち、大切だった、愛していた人たちの顔が次々と浮かんでくる。もうすぐ弾が尽きる。そんなことわかっている。でも撃ち続けたい。一人でも多く。とにかく一人でも多く。殺してやりたい。とにかくとにかくただいづらを殺したい。殺してやりたい。殺して

引き金の感覚が変わった。弾が尽きたようだ。

その瞬間、ふと視界が開ける。

灰色の壁、灰色の煙、灰色の空気、灰色の空。その灰色を引き裂いて飛び散る赤い血。

俺は一瞬自分の心臓の音を聞いた気がした。

こちらの弾が尽きたのがわかったのだらう、廃墟の陰から敵が飛び出して来る。一、二、三、四、五、残りは五人。俺は身を引くと重い自動小銃を投げ捨て、ダガーナイフを抜いた。相手はまだ銃がある。飛び出すのは得策ではない。一人が俺のいる窪みの上まできて銃を構える。おれは素早く相手のすねにナイフを突き立て、叫び声とともに崩れ落ちる敵を蹴飛ばして手榴弾の安全装置を解除する。上半身だけ飛び出し三人の敵を確認すると、向こう側へと投げつけた。

銃弾がいくつか左腕を貫いた。痛みが腕から脳みそまで駆け上がる。ナイフを握る右手に力がこもる。

響き渡る爆発音。歯をくいしばりながら二秒待つ。向こう側からかけらのような何かが飛んで来て落ちる。かつん、と同時に最後の力で俺は飛びあがった。そして投げつけたナイフは相手の胸に突き刺さった。

一瞬の静寂。

どき、と、音がした。ああ、ああ、ああ、死んでない。死んでない。俺は生きている。ゆっくり、ずるずると尻もちをついた。肩が上下するたびに腕から血が滴った。

広がっていく血だまりのなかに何かが落ちていた。

そのとき呻くような声がした。

「いめん……いめんよ……」

目を覚ました。

俺は病院にいらしたかった。清潔な着替えなどもう残っていないのだらう、汚れきった軍服のままだった。せわしない足音、うめき声、泣き声。またどこかで空爆があったのかもしれない。

俺は頭の横に血で錆びた何かがおかれているのに気づいた。手にとってみるとそれは蓋のついた懐中時計だった。俺のものではない。これは何だろう、となんとなく開けてみると丸く切り取られた紙切れがこぼれ落ちた。ひらりと見えたのは親子三人写っている写真のようだった。黒に近い褐色に染まったなかに細いペンでなにか書かれている。俺は紙切れを拾いあげると目を細めて文字を読もうとした。それはとても丁寧に書かれていた。

「I love you」

俺は首筋のあたりがざわつくのを感じた。

思わず紙切れを裏返す。意識を失うまで見ていたのと同じ軍服を着た男が写っているのを見て、吐き気とも鳴咽ともつかないものがこみあげてくる。

体を起こし、周囲を見回す。誰かに何か叫びたい気分だった。そのときなぜか赤く腫れた目をした子どもと目が合った。地面に座り込んで、母親らしい女性を抱えていた。俺は呼吸が早くなっていくのをおさえられない。

「へいたいさん」

不意に少年が声を発した。そしてふらつきながら膝をついて立ち上がった。抱えていた女性の頭がごとんと落ちた。側まで来ると、かすかに震えながら俺の服をぎっと掴んで少年は言った。

「あいつらがぼくらにしたように、あいつらをころしてよ」

まっすぐなその目を、軍服を握る細い指を見て、俺は震えが止まらなかった。

神に愛された男

彼が生を授かったとき、

幸せな幼年期を過ごせるようにと、神は彼に愛すべき家族を与えた。

彼が学校に入学したとき、

多くの友達を作れるようにと、神は彼に社交性を与えた。

彼が初めて恋をしたとき、

想いを伝えられるようにと、神は彼に勇気を与えた。

彼が詐欺師に声をかけられたとき、

人に騙されないようにと、神は彼に万物への洞察力を与えた。

彼が将来について悩んだとき、

才能を遺憾なく発揮できるようにと、神は彼に芸術家への道を与えた。

彼の芸術が全く人に理解されなかったとき、

いまひとつの辛抱だと、神は彼に忍耐力を与えた。

彼が認められ天才と評されるようになったとき、

驕る事のないようにと、神は彼に謙虚さを与えた。

彼が最愛の女性と結婚したとき、

人生の絶頂期を祝福するかのように、神は彼に愛すべき家族を与えた。

まもなく、彼の両親が年老いてきたころ、

愛する者の死に直面することがないようにと、神は彼を天国へと招待した。

~HANDS~

きみの手はまだお父さんやお母さんの指を
ギュッとにぎれるくらいの小さな手だった
無邪気に笑う姿

きみの手は新たな発見をする手になった
新しいものを見、体験し、すくすくと成長していた
未知の世界へ夢をふくらましている姿

きみの手はテニスラケットを握る手になった
いつのまにか身長も私を追いこし、心も体も成長していった
汗を流して走り回る姿

きみの手は大事な人を守る手になった
いつのまにか私の手より大きくなっていた
新たな旅立ちの姿

きみの手は新たな命を抱く手になった
私がかきみに愛情をいっぱい注いだように
心いっぱい愛情を小さな妖精に注いであげてほしい
無邪気に笑いかける姿

きみの手が大きくなるにつれて
きみとの思い出や
きみへの愛情はどんどん大きくなってくる
どんな姿のきみも私はいつまでも見守っている

寂れた墓地に 一陣の風が吹き抜けた
木々がザアザアと その枝葉を揺らす

不気味と地面に堕ちた影は 不規則に姿を変える
雲が空を覆う

世界は暗く 光を失っていく

風が止んだ

生命あるものは動きを止め 次第に音が死んでいく

刹那 静寂の支配する異世界

そこに 白いカゲが揺らめく

—— ザア…… ——

動き出す その静寂のハザマ

零れ差す明りの中に 人影が浮かぶ

長髪の スラリとした少女

—— ソノ オンナ ノ メ ガ コ チ ラ ヲ ——

ねえ知ってる？ 昼のことなんだけど、あの男の子ってばいきなり墓から跳び出して飛んでっちゃったんだって。話によるとセンパイたちが彼女さんのことでちよつとからかった……いや、たぶんほとんど嫉妬だね。センパイ、さっき『俺だって、俺だってなあ』とか言いながら泣いてたもん。まあそれで顔を真っ赤にして逃げてっちゃったってわけ。

でもホントにあの子も幸せモノだよ。アタシたちの仲間になってもう四年だよ！？ それなのに、今でも彼女さんが来てくれてるんだもん。センパイたちの気持ちもわかるよ。でも実際、あの子ってばかわいいからいじりがあるんだよ。ねー。

センパイ「へへっ、オレたちのことなんかもう誰も覚えてねえもん。なア。

クソオ、この幸せモノがあああああ

一同全員「「幸せモノがあああああああああああああああああああ」

男の子「うあああ、だから来るなって言ったのにー」

嬉しい悲鳴が夏の空に響く。

墓地は今日も日溜まりの中に……

少女愛

二人は出会った

男は少女を好きになった

少女は男を好きになった

男は彼氏になった

少女は彼女になった

男は少女の両親に交際を告白した

交際は許されなかった

二人は二人で逃げた

男は夫になった

少女は妻になった

二人で暮らしていた

二人は警察に連行された

男は犯罪者になった

少女は被害者になった

二人は会えないようになった

二人はまた出会った

男は少女を忘れなかった

女は男を忘れなかった

男は女に気がつかなかった

二人はもう出会わなかった

僕の目の前に、ベッドが二つ並んでいる。右のベッドは老翁、左には老婆が座っている。

二人は夫婦なのだが、どちらも認知症を発症し、互いに夫婦である事を忘れていているらしい。

二人はほぼ同時期に発症して、それから二ヶ月、ずっと入院している。

毎朝のように二人は看護師に、隣の老人が誰か尋ねるのだが、教えられてもやはり思い出せず、翌朝にはまたそれも忘れてしまう。時折互いに会話するのを見かけるが、呆けた老人らしく、全く噛み合っていない。先週、家族が見舞いに来ていたが、完全に呆けている事が分かると、肩をすくめてさっさと帰っていった。冷たいものだ。

今朝、人声で目が覚めると、向かいのベッドの周りに看護師が集まっていた。どうやら老翁の容態が急に悪化したらしい。家族に連絡をと、医師が緊迫した声で囁くのが聞こえる。そのうち落着いたようなので様子を聞いてみると、もって明日までだと言う。もし誰もいない時に何か起きたら、ナースコールを押してくれと頼まれた。

そんな騒ぎにも関わらず、老婆の方は相変わらずぼうつとしたままだ。マスクをあてがわれ、昏睡状態の老翁の姿を見ても、なんの表情も浮かべない。

その日一日、病室の中はオシログラフの電子音でいっぱいだった。

「ばあさんさっさとなら。寝してやる」

突然聞こえてきた人声に、僕はハッと顔を上げた。いつの間にか病室は真っ暗で、看護師の姿も見えない。

「…年を取ると、昔は恥ずかしかった台詞も

簡単に言えるもんだな」

声の主を見つけて僕は驚いた。かすれた咳きを発しているのは、昏睡状態のはずの老翁だった。

「…すまんかったな。呆けたふりなんかして。おまえの認知症を知った時、わしはその事実能耐えられなかった。おまえがわしを忘れておるのに、わしだけおまえを覚えているなんて我慢でしかなかった。だから、わしも婆さんを忘れた事にしたんじや。老老介護なんてしたくもなかったしな。今さらこんな事を言ったって、おまえはもう何も分かっとらんだろうが……」

「何を言つとる……」

突然、別のかすれ声が耳に飛び込んできた。見ると、寝ていたはずの老婆が、凄まじい驚愕の顔を浮かべて、起き上がるところだった。

「何を言つとるんじや……!!」

その直後の大騒ぎについては、書くまでもないだろう。とりあえず、僕がナースコールを押したのは、老翁の首を絞めようとする老婆を止めるためだった事だけ書いておく。

全ては、爺さんが婆さんのプリンを勝手に食べた事から始まった。怒った彼女は嫌がらせに、呆け老人の振りをしたのだが、その演技があまりに真に迫っていたため、爺さんはすっかりそれを信じ込み、逆に自分も呆けたふりを始めた。今度は婆さんの方が彼の演技に騙され、お互い後に引けなくなっているうちに二人とも入院が決まり、結局、今までずっと演技をし続けていたという事らしい。

結局、爺さんの容態は回復し、今は二人とも仲良く並んでベッドに寝ている。

皮肉な事に、二人とも毎日必死で呆け老人を演じていたために脳が活性化し、どちらも当分、認知症の心配はないのだそうだ。

へおしまい

なんでも買取屋

携帯電話が鳴り着信画面を見た。

「まただ……………どうして？」

どうしてわたしがこんな目にあわなくちゃいけないの？」

その店はわたしの家からすぐの曲がり角に突如として現れた。その店では買取リストというものがあり、客が売りにきた物の質に関係なくどんなに古くても、さらにたとえ壊れていてもリストに書かれた値段で買い取るらしかった。

わたしは興味本位で一応まだ使える古いパソコンを1台持ってその店に行ってみた。その噂は本当だった。壁には「パソコン8万円 壊れて使えなくてもOK」「腕時計1万円 ブランド物でもこの値段です」といったように、品物と注意書きが書かれた張り紙が所狭しに張られていた。わたしはこの変わった店のことを友達や婚約者であるナオキに話した。

この日は売るものも持たず夜中に店を訪れた。誰かにさつきけんかをした彼のグチを聞いてもらいたくて、まだ開いていたこの店に入った。ふとリストに目をむけるとそこには「愛1円」と書かれていた。冗談まじりで「わたしの愛を買ってよ」というと店主はにこりともせずわたしに1円を差し出した。

わたしは怖くて泣きだしそうになるのを必死にこらえながら移転してしまつたあの店のことを思い出していた。あの店が無くなってからナオキとかいう知らない人から電話が何回もかかってきたり家にやってきたりと恐ろしい毎日が始まつたように思う。今私の家のドアの前で「俺はフィアンセだ」などと叫んでいる。……………もう…イヤ……………

「愛1円 相手に関する記憶、愛を売ったという記憶をいただきます」

◆夏が近くなると、十年前に起こったとある事故を思い出す◆一九九九年八月十四日、神奈川県玄倉川でキャンプをしていた会社員、子供六人を含むその家族、及び会社員の婚約者恋人を含む十八名が氾濫した川に流され、うち十三名が死亡した◆当時テレビで見えていて印象深かったのは、当時一歳の甥を抱えていた叔父がとつきの機転で甥を岸へと放り投げ、甥は一命を取り留めたということである。叔父のほうは結局濁流に飲まれ、生きて帰ることはなかった◆若い命は尊いものであり、親の世代は命を賭して彼らを守ろうとするものである。ましてや、肉親であつたなら自然と身体が動くものだと聞く。叔父の崇高な行動は、この自然な衝動の好例であろう◆これから夏休みが始まる学生・社会人の方々も多いだろう。育ててくれた親に不孝で報いることのないよう、くれぐれも身の安全には気をつけるように（編集部）

ホームシック

中学一年、口うるさい親なんて、いなくて良いと思った。

中学二年、大暴れして、家の壁に穴を空けた。

中学三年、憂鬱で、家族と話したくなかった。

高校一年、すぐに腕を振り上げる父に、一撃をくらわせたかった。

高校二年、連絡もせずに、夜まで友達と遊んだ。

高校三年、邪魔ばかりする弟妹が、うつとうしかった。

一人暮らしを始めた。

早く出て行きたいと思っていた実家に、ちよつと帰りたくなった。

カップルの会話

男「好きだよ」

女「どれくらい？」

男「ジャワ島のバナナくらい好きだよ」

女「それじゃわからないわ。他の例えでいって」

男「じゃあインドの出っ張りくらい好き」

女「ホントに？うれしい！私もあなたのこと

トンガのスイカくらい好きよ」

男「じゃあぼくは…」

無限ループ

コンテスト結果

[Aの部]

コラム番号	コラムタイトル	点数	順位	特別賞
		まじょコメント		
A01	無題（花火）	5 pt	5 位	1 sp
		冬のクリスマスほどではないけれど、夏の花火も愛情確認イベントか。 「いつもより少しだけ強く」が、しあわせ感あふれてて、いいですね。 青春どまんか直球気分の愛の表紙でした。 特別賞：夏祭り賞（接戦でした）		
A02	結婚指輪と愛	9 pt	3 位	0 sp
		恒例正統派梓に、こんなさっくりトークはいかが。愛することは守ること。自らの胸中へと静かに埋め込んでゆく決意のような。 すんとみんなの腑に落ちてのブロンズメダルでした、おめでとう！		
A03	愛する者しか見えない世界	12 pt	2 位	1 sp
		戦闘シーンのバイオレンスと家族写真の悲しみの対比で、まさに映画的に「殺戮」の現場へと引きずり込みつつ、「殺さなきゃ死ねねえよ」と戦いの本質へ肉薄。 愛するからこそ戦いは止まないのだという、とても重たい問いかけでした。 特別賞：「へいたいさん」は漢字で書きま賞（「へんたいさん」に見えた!!）		
A04	神に愛された男	5 pt	5 位	0 sp
		さくさくさくと人生をともに歩んできて、ラストでえーっ！？ なんて、イケてない神様っ！ あ、そうか。招待状、無視しちゃえばいいのね。		
A05	～HANDS～	1 pt	11 位	0 sp
		そうやって親は、ずうっと子の成長をあたたかく見守ってゆく存在なのです。 手の大きさという具体的なモノを介して、親心のカタチ、ほんわか伝えていただきました。 じっと手を見る読後感。		
A06	無題（墓地）	4 pt	8 位	1 sp
		おやおや少女＝幽霊かと思いきや、の逆転劇。ひっくりかえしが、ここちよい。 みんなでハモっちゃう、とっても陽気な幽霊カルテットでした。 特別賞：草の陰で応援賞（平和ボケ最高！） イチオシフレーズ：「クソォ、この幸せモノがあああああ」×2		
		5 pt	5 位	4 sp
		パラパラマンガのナレーション風。		

A07	少女愛	たんたんを展開してて、じつは超シリアスなドラマ。特に「少女」でなくなってしまった「女」が男にスルーされてしまうラストが、ぞーっ。 特別賞：（21）で賞（ふりがな：ロリイラストつき）中谷君のオススメ賞（共感できるそうです）ロリコンで賞（女になったら気付かないんだね）愛で賞（アニキのイチオシ）			
A08	現世	<table><tr><td>33 pt</td><td>1 位</td><td>1 sp</td></tr></table> 感動ストーリー、のち、プリンのドタバタ。ていねいに作り込んだドラマから、長年連れ添った夫婦ならではの機微が伝わってきます。 すうっとフェイドアウトすると思いきや、という後半の「動き」がみなさまにヒットして、圧勝ゴールドメダルでした、おめでとう!!! ただ、「僕」のスタンスが不明なのが読者としてはやや落ち着かないところです。ここって男女共用病棟?? いっそ幽霊にしてしまうか、看護師さんやお医者さんにしてしまうかという手もあったのでは。 特別賞：プリン愛で賞（プリンの力が偉大だから）	33 pt	1 位	1 sp
33 pt	1 位	1 sp			
A09	なんでも買取屋	<table><tr><td>1 pt</td><td>11 位</td><td>0 sp</td></tr></table> 愛1円、あなたは売りますか？ アヤシイお店。定番設定だけれど、しっかりホラーしてましたね。 一時の気の迷いで、うっかり手放してはいけませんよ、ご用心ご用心、と。 イチオシフレーズ：「俺はフィアンセだ」「愛1円」「パソコン8万円」	1 pt	11 位	0 sp
1 pt	11 位	0 sp			
A10	無題（編集部）	<table><tr><td>3 pt</td><td>9 位</td><td>1 sp</td></tr></table> 終業式のホームルーム、夏休み前の事故の注意といった趣ですね。 コンパクトにかっちりまとめてグッジョブ！ 特別賞：ピッタリ賞	3 pt	9 位	1 sp
3 pt	9 位	1 sp			
A11	ホームシック	<table><tr><td>3 pt</td><td>9 位</td><td>1 sp</td></tr></table> この場のたくさんの人に共通する思いだったのでは。離れてみて3ヶ月半、どうですか？ 遠きにありて思うもの。家族ってそんなものだよね。もうすぐ夏休み。タイムリーな佳品でした。 特別賞：共感するで賞（そのまんまだから）	3 pt	9 位	1 sp
3 pt	9 位	1 sp			
A12	カップルの会話	<table><tr><td>9 pt</td><td>3 位</td><td>5 sp</td></tr></table> ひゅーひゅーバカップル！ いいじゃないのしあわせならば。 ずうっとそこで無限ループしていただきましょ う、な今期の読み納めでした。 それにしても賑々しくみなさんのツボに来ましたね。狙い通り？ だったでしょうか。最多特別賞&イチオシフレーズ大賞&ブロンズメダル&TAさんからのスイカgetおめでとおっ!!! 特別賞：宮崎の完熟マンゴーみたいに面白いで賞（バナナだから）while（true） {}（イミフwww）バカ（ツプル）賞（「トンガのスイカ」って何？）よくわからない賞もうちょっと続けて欲しかったで賞（聞いていておもしろいけど実際にいたらウザいよね。あ、別に、ひがみとかじゃないし!!）	9 pt	3 位	5 sp
9 pt	3 位	5 sp			

		イチオシフリーズ：「じゃあインドの出っ張りくらい好き」×5「ジャワ島のバナナ」「トンガのスイカ」（イラスト付き）「トンガのスイカくらい好き」「無限ループ」
--	--	---

[Bの部]

コラム番号	コラムタイトル	点数 まじょコメント	順位	特別賞
B01	CLOVER	5 pt ——もう一度聞きたかったな。 ラスト1行が、すんと心に落ちます。 二度とは会えない誰か。四つ葉のクローバーを探し求めた幼き日は戻らない。 シンプルな単語あそびに、ふわりと叙情を載せた、とてもきれいな「愛の表紙」でした。 特別賞：気付かなかったで賞（気づかなかった） イチオシフリーズ：「CLOVER」（気付いた感動！）	7 位	1 sp
B02	愛を持つべからず。	3 pt エンジェル・ワールドに大異変。 「お言葉ですがゴッド」、ヘタレ神様に愛は所詮、治められないのさ。 設定だけで終わらず、天使の大脱走というドラマへと展開した着想がすばらしい。 だから人間世界は楽しいのさ。根底に流れる楽観的な世界観に共感します。 イチオシフリーズ：「しかしお言葉ですがゴッド」×	9 位	0 sp
B03	コイノカタチ、アイノカチ	3 pt 犬かわいい。尻尾ふりふり、ご主人さま、まっしぐらの感じが、このフォントでどんぴしゃに表現されてますね。 試験前のこの季節にとてもうれしい、癒されコラムでした。 フォントが大評判で最多特別賞タイです、おめでとう！ 特別賞：フォント賞（ほんとがフォントに良い！←ほんとに、この通り書いてありました） 鬼フォント賞（フォント交換お疲れ様でした〜） 字がかわいいで賞（字がキレイ、かわいい） フォント賞（努力がにじみ出ていました）	9 位	4 sp
B04	六十年、会いたかった人	19 pt 本年度のラストコールはしっとり。 ハンセン病の隔離、ニッポンの負の歴史、重たいテーマを、しっかり腰を据えて形にさせていただきました。 BGMとしてお届けしたのは「千の風になって」です。私は死んだのではない、風になっただけ。重たいからと内向きに籠もらずに、外へと開いたラストがほんとうに爽やかでした。 おめでとうゴールド・メダル!!! イチオシフリーズ：「利造はらい病」（利造払い病by 某）「らい撲滅」	1 位	0 sp
B05	傍らにあるもの	0 pt こつんこつん。選び抜かれた言葉たちが心に打ち込まれてきます。 「二つの心は交換できない」と「似ているって」のくだりが、とりわけ好きだったなあ。 とてもいいねいに人生の旅程を歩んでいる作者さんの姿が浮かんできます。	12 位	0 sp

	B06	LOST THE LOVER	7 pt	5 位	2 sp
			出ましたおじさんファイター。この書き手さんの独壇場です。 整備班＝裏方さんに焦点をあてたところが、しみじみ。 特別賞：ガンダムで賞？（ガンダムだから）愛の多様性賞（機械萌☆） イチオシフレーズ：「飲むか。」		
	B07	黒歴史ファイル	5 pt	7 位	0 sp
			あまりにイタイタシイので載せました（TAさん）だってさ。 うんうん、たしかに黒歴史だ。 そうして少年はおとなになってゆくのです。えーなに実話あ！？ イチオシフレーズ：「ファァァアック！ 神は死んだ！」 「□□！ いつか復讐してやるからな！」 「やめて！ もう僕のライフはゼロですよ！」		
	B08	『恋』は、相手の長所を……	12 pt	3 位	1 sp
			シタゴコロ・マゴコロネタあふれるなか、ユニーク視点でさくっと。 それだけに、うまいこと言った感が、とりわけ際立ちました。この激戦のなか、みごとブロンズ・メダルです、おめでとう！ 特別賞：吉見賞（「先生」のごり押し）		
	B09	一方通行	12 pt	3 位	1 sp
			出ました目玉おやじ！ せつなさ全開。見ることと思考することしかできないという究極の「受け身」設定で、自分を殺すことによって唯一のメッセージを伝える、まさに究極の「愛」のカタチ。 あざやかでした。おめでとうブロンズ・メダル！ 特別賞：（モールス信号）賞 イチオシフレーズ：「（モールス信号）」× 2		
	B10	信ずるに足るものを手に入れた	3 pt	9 位	0 sp
			詩人だれだろう？ ずいぶん古そうな、しかも若死に？ そこがほかされているので、ちょっとつかみがたいのですが、日頃は話さない心のうちの「ひめごと」をこっそり教えてもらったような。		
	B11	愛を捕まえよう！	15 pt	2 位	4 sp
			何このわけのわからなさ。 愛を捕まえて飼って、大きくなりすぎたら別途料金を払ってケーサツに引き取ってもらう。ターゲットはセタガヤク？ マニュアルあふれる現代社会を相手どって、かるやかに遊んでいただきました。ユーモアセンスにブラボーです。 シルバー・メダル&最多特別賞タイ&イチオシフレーズ大賞get、おめでとう!!! この夏休み、ぜひ愛を捕まえに世田谷区まで出かけてくださいませ。 特別賞：怪文賞（僕たちが未熟で解らなかった） ブランコを漕いでいるで賞（ブランコ大人気！） 世田谷区長賞（意味不明。作者のコメントが聞きたい） 世田谷区民賞（謎が謎をよぶこと） イチオシフレーズ：「さあ、あなたも愛を捕まえに世田谷区に乗り込みましょう」× 2 「愛は基本的に世田谷区		

			を好みます」「ブランコを漕いでいるでしょう」
			6 pt6 位2 sp
B12	終章		すてきなハッピーエンディング。 「もう持っているものを……」こんなすてきな決めゼリフ、言ってみたいし言われてみたい。 いつも読むものをとてもしあわせにしてくれる傑出した書き手さんにブラボーです！ ありがとう。 特別賞：ハヌマーン賞（うらやましいカップルですこと）スイーツ（笑）賞（スイーツwwのように甘い感じ）